

## 未来へ

熊本地震で被災した多くの外国人から、「家が壊れ資産を失う等自分たちより深刻な状況にある日本人が助けてくれたことは驚きであり感謝しきれない。」「震災後、近所の人たちが、「大丈夫」「元気」と声をかけてくれることが嬉しい。」と聞きます。災害時に外国人を含め弱者を置き去りにしない社会づくりに向け、「地域の力」の重要性が再認識された瞬間です。

一方、彼らは、熊本大学の避難所運営に携わり、高齢者家庭へ物資を配り歩き、炊き出しで母国料理を振る舞う等々、地域を支える存在でもあり、「多文化パワー」が発揮されました。

私たちは、豊かな社会を未来へ持続していく責任において、多様な人たちがそれぞれの弱点も含め違いを認め、必要とし合える存在になっていく努力をすることが大切です。「地域の力」と「多文化パワー」のつながりを日頃から構築していくことが豊かな未来へのキーワードになるのではないのでしょうか！



# 2016熊本地震外国人被災者支援活動報告書

## 多文化共生社会のあり方

～未来へ、つながりの大切さ～



熊本市国際交流会館は、熊本震災時に、外国人避難対応施設として開設されました。

編集・発行

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住所 〒860-0806

熊本市中央区花畑町4-18

熊本市国際交流会館

電話 096-359-2121

FAX 096-359-5783

e-mail pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL <http://www.kumamoto-if.or.jp/>





# 被災外国人の悩みに対応



熊本国際交流会館には約100名の外国人被災者が相談に来ている。熊本市国際交流会館

## 行政用語・手続き「言葉の壁」

言葉や文化、習慣の違いが災害被害者になりやすい外国人被災者。熊本市国際交流会館は、被災外国人の悩みに対応するべく、行政用語や手続きの壁を乗り越えるための支援活動を行っている。

### 熊本市国際交流会館、あす相談会予定

熊本市国際交流会館は、被災外国人の悩みに対応するべく、行政用語や手続きの壁を乗り越えるための支援活動を行っている。あす（7日）は、熊本市国際交流会館で相談会を開催する予定だ。

### 英語の情報「反響大」

#### 学園大准教授、フェイスブック

熊本市国際交流会館の英語情報「反響大」。学園大准教授、フェイスブックを通じて多くの外国人被災者に届いている。

## 外国人への救援活動紹介

### 熊本地震での課題など報告



熊本地震で被災した外国人の支援について報告されたシンポジウム

熊本地震で被災した外国人の支援について報告されたシンポジウム。外国人被災者の避難先や生活支援の課題などが報告された。

## この人に聞く

### 熊本地震

熊本市国際交流会館の職員が、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。

### 八木 浩光さん

## 外国人被災者支援 備えは？



外国人被災者支援の備えは？。熊本市国際交流会館の職員が、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。

## コミュニティとの連携を

熊本市国際交流会館は、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。コミュニティとの連携を強化している。

# 被災外国人 言葉の壁



### 熊本地震

## 手続きの用語難解

被災外国人の言葉の壁。熊本市国際交流会館の職員が、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。

被災外国人の言葉の壁。熊本市国際交流会館の職員が、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。

# 被災外国人 避難所生活



## 熊本市 支援奮起の姿も

被災外国人の避難所生活。熊本市国際交流会館の職員が、被災外国人の悩みに対応するための支援活動を行っている。



## 外国人被災者の声

### 熊本地震と家族

4月14日夜と4月16日未明の二度、震度7の大きな地震が熊本を襲いました。幸い家族は全員無事で、家も大丈夫でした。15日にお風呂に水をいっぱい溜めて、水と食料品をたくさん買ってきました。16日の本震後、しばらく車中泊をしました。

日本語が全く分からないおじいちゃんは認知症で、地震後デイサービスの利用はできなくなり、家でガスと水が出ないため、ホームヘルパーさんも来れなくなりました。近くの避難所を回っても、和式のトイレしかなく、人が多い中での避難所生活は、認知症のおじいちゃんにとっては無理だと判断しました。そこで、余震の続く中、車の中で生活していましたが、夜になると車内で騒ぐようになり、3日間が限度で、その後は余震が続いてはいましたが、自宅に戻ることになりました。



楊 軍さん  
(国際交流会館 中国語相談員)

### 熊本地震とフィリピン人の活動

熊本市内には、450人以上のフィリピン国籍の外国人が生活しています。日本人の配偶者が多く、日本国籍への帰化や日本人の間に生まれた子どもたちを含めるとさらに多くのフィリピンルーツの人たちがいます。このフィリピン人は、熊本フィリピン人会とカソリック教会の2つのコミュニティを中心に助け合っています。

熊本地震では、就寝中にテレビが顔の真横に倒れ九死に一生を得た者など、多くのメンバーは家に戻れず車中泊を余儀なくされました。そんな中にも、4月24日(日)に在大阪のフィリピン領事館によるパスポート更新・相談会、5月4日(水)のマリア・フェスティバルを開催し、お互いに励まし合いました。福岡のフィリピン人グループも駆けつけ元気づけられました。

メンバーには、熊本市国際交流会館でのコムスタカ〜外国人と共に生きる会〜の炊き出しを手伝い、助け合いました。今後も日頃からの交流や情報交換を大切にして、助け合っていきたいと思っています。



日高マリナさん(国際交流会館 タガログ語相談員)

### 私と家族と熊本地震

4月1日、私と家族(夫と二人の子ども)は仕事の関係で熊本へ引っ越して来ました。その2週間後に熊本地震が起こりました。引っ越したばかりのアパートは壊れ、知り合いや母国出身の友人を少なく、孤独感に襲われました。

避難所も分からず、やっとたどり着いた子どもの小学校では、知り合いがなくて不安でしょうがありませんでした。その時、長女の友人が声をかけてくれました。本当に救われた気持ちで一杯になりました。知人や友人から電話をいただくと安堵から大泣きました。

私が、熊本地震を経験して感じたことです。「震災が起きた時、外国人も日本人もどうしようもない孤独さを感じます。そんな時は、お互いに話し合ひましょう、声をかけ合うだけで、辛さが和らぎます。他人に声をかけることは勇気が必要ですが、他に何もいりません。声をかけられ、被災者は救われます。」

\*7月16日(日)外国人のための防災「地震セミナー」でのディナー・ランブクピティアさんの被災体験発表より

ディナー・ランブクピティアさん(崇城大学教員、スリランカ)

### 熊本イスラミックセンターの熊本地震支援活動

熊本市には約350人のムスリム(イスラム教徒)が生活しています。国籍は、インドネシア、バングラデシュ、パキスタン、マレーシア、エジプト、アフガニスタン、スーダン、キリギス等で、研究者が多く就労者もいます。

熊本地震は、私たちムスリムへも壊滅的な被害と心的ショックを与えました。とりわけ女性と子どもたちは、トラウマを抱え、家に入れなくなりました。また、水と食料を確保することも当初大きな問題でした。幸運にも誰も怪我することなく無事に避難することができました。

このような中、日本全国のムスリムの友から水、食料、トイレトペーパーや生理用品等の生活用品が多く届けられました。私たちはこれら救援物資を困っている方々へ届ける活動を始めました。当初、イスラム教は怖い、信じられないと受け入れを断られました。毎日のようにテレビでイスラム過激派のテロ行為が報じられており仕方ないかもしれませんが、関係機関からの助言もあり、その後、益城町、御船町、大津町等の方々へ物資を直接お渡しすることができました。

今後、私たちムスリムとそうでない方々が協力し合い、お互いに助け合いながら共に生きていける、強い絆を持つ社会を、日本、熊本で作っていききたいと思います。

マルロ・スイスワヒュさん  
(熊本イスラミックセミナー、インドネシア)

### My experience of Kumamoto Earthquake

The Kumamoto earthquakes were experiences I never expected to have, and everybody who experienced them will never forget what happened on those April days. To ensure the foreign residents of Kumamoto could exchange their experiences of what happened, I helped to organise a workshop in July 2016 for people to share them. Around thirty people gathered to discuss what they had been through and to listen to the experience of others. One thing that every person in attendance mentioned was how the Japanese residents helped foreigners, shared food with them, helped them to understand what was going on. Despite the divide some people imagine between the Japanese and foreign community in Kumamoto, during this time of disaster everybody came together. If there is one thing I would want to share about my experiences of the earthquake it is this: we are all only human, and it is in the worst of times that we realise that we are all humans together and differences are only skin deep.

Andrew Mitchell (Mr.) Kumamoto University (England)

(日本語訳)

### 熊本地震で感じたこと

私にとって、熊本地震は、これまで経験したことがない凄まじい経験でした。そして、経験した人はこの4月の出来事を忘れることはないでしょう。外国人が熊本地震で経験したことを共有するため、私は7月にワークショップの企画開催に携わりました。約30人の方々が集まり、経験したことを自ら話し、他者の経験を聞きました。誰もが話した共通した意見は、日本人が外国人へ、食料を確保したり、地震の状況を教えてくれたり、と助けてくれたということでした。日本人と外国人コミュニティ間の隔たりなく、震災中は誰もが一つになって助け合いました。私がこの地震の経験をおして、皆さんと分かち合いたいことがあるとすると、それは次のようなことです。

「私たちはみんな同じ人間です。みんなが人として共にあることは、最悪な時ほど発揮されるものです。違いは肌の色だけです。」

アンドリュー・ミッチェルさん(熊本大学、英国)



## 支援者よりのメッセージ

### ▶コムスタカの熊本地震での活動

コムスタカ外国人と共に生きる会は、2016年4月14日の熊本地震発生翌日の15日から、ホームページ上で、多言語による地震関連情報の発信、外国人向け避難所となった熊本市国際交流会館での4月16日~30日までの炊き出し活動、被災外国人の個別相談など緊急救援活動に取り組んできました。そして、5月以降の中長期の取組みとしては、①ホームページ上で10ヶ国語による地震関連多言語情報の提供 ②外国人被災者へ、特にシングルマザーへの緊急融資、③外国人シングルマザー被災者へアンケート調査 ④外国人被災者救援・支援活動の報告や課題についての広報・シンポジウム・セミナー・学習会の開催等の取組を、また、外国人被災者、そのなかでも、とくにDV被害者、生活困窮者やシングルマザー、刑事被告人の自立支援へむけた個別相談に取り組んでいます。

災害では想定外や行政が対応できない事態が続出します。熊本地震発生直後から被災者自らが救援活動に向けて臨機応変に対応することや多言語情報発信の重要性、被災者のニーズと外部の支援者や支援物資の需給調整の困難さなど「災害時の多文化共生」の在り方を考え実践する貴重な場となりました。

中島 眞一郎さん(コムスタカ外国人と共に生きる会)



### ▶九州地区地域国際化協会の防災連携による支援活動

私は、九州地区地域国際化協会の一員として、4月21日から3泊4日の日程で支援活動に従事しました。21日は、新幹線は不通、在来線の普通列車も何時に出発するのか不明の状態、多くの列車を乗り継ぎながら北九州市から7時間かけてようやく熊本市に到着しました。路面電車は開通していたものの、車窓を見ると、道路が亀裂で盛り上がりたり建物の壁が剥げ落ちたり塀が倒れていたり、被害の様子が見て取れました。

現地では、主に避難所の巡回と多言語情報の収集・整理に当たりました。これまで、「多言語支援センター」についての認識はあったものの、実際の従事は初めてです。KIFのスタッフや多文化共生マネージャーの先輩方の指導をいただきながら、刻々と変化する状況に対応するという貴重な経験だけでなく、多くの認識を改めさせられました。

北九州市は地震をはじめ自然災害が比較的少ないと言われてきましたが、いつこのような災害が発生するかもしれない、そのために早急に体制を整備しなければならないこと。また、外国人をはじめ様々な協力者や機関が関わって支援をされている様子を拝見し、平時からKIFの皆様が信頼関係を培ってこられた賜であると感じ、私たちもその活動を見習わねばということでした。

今回の支援活動に参加できたことに感謝するとともに、被災された全ての皆様が一層早く日常生活をとり戻すことができますようお祈りしております。

平城信明さん((公財)北九州国際交流協会)

### ▶熊本地震災害多言語支援センターの運営に携わって

今回の熊本地震に際して、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会では、災害発生初期から熊本市国際交流振興事業団(KIF)と連絡を取りながら、「熊本地震災害多言語支援センター」の運営のお手伝いをさせていただきました。

2007年、新潟での災害多言語支援センターの活動以降、いくつかの災害時の活動や全国各地での災害時対応研修などに携わってきた私たちの目から見て、現実の被災状況下において、これほどまでに力を発揮できる国際交流協会があったことに、驚きを隠せませんでした。

今回の熊本地震では、KIFの日頃からの多文化共生に対する意識の高さはもちろん、外国人の方々との信頼関係の深さ、そして自らも被災しながら支援活動に注力する職員の方々の姿には心打たれるものがありました。これらKIFの活動は、今後の災害時の外国人支援を考える際のモデルとなるものであり、今回の活動に参加した私たち一人ひとりが各地域での多文化共生社会の推進に向けて、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

被災地熊本の一日も早い復興をお祈りするとともに、私たちを受け入れてくださったKIFの皆様へ感謝申し上げます。

高木 和彦さん  
(NPO法人 多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事)

### ▶地震時の地域日本語教室の役割ー武蔵ヶ丘教室

16日の本震後から翌日にかけて、学習グループごとに連絡を取り合い、安否確認や情報交換を行っており、国際交流会館の事務局が連絡した際には参加者ほとんどの安否確認ができた。(もともと地震前から作っていた学習者だけのLINEグループで、学習者同士でも安否確認や情報交換を行っていた。)その際、LINEグループでは、自分の家の被害状況の報告から、営業しているスーパーや給水所の場所、ガソリンスタンドや交通など様々な情報交換があった。LINEで共有した情報は、日本語能力の高い学習者が手分けして多言語に翻訳し、日本語が分からない参加者も情報分かるように協力していた。自宅が近い学習者と日本語ボランティア同士は、日頃から地域のイベントに参加するなどして積極的に交流しており、地震で被災した後LINEで情報交換を頻繁に行い、励ましあって過ごされていた。

武蔵ヶ丘教室は、武蔵ヶ丘周辺に在住している日本人と外国人が参加しているため、地震後事務局が連絡をとるより早く相互で安否確認や情報交換を行っていた。日頃より同じ地域に住む住人として関係が築けていたため、日本人と外国人が協力し合いながら緊急時を乗り越えることができ、改めて顔の見える関係の重要性を感じた。

村上百合香さん(当事業団)



ボランティアと学習者のやりとり



## 外国人被災者への生活相談会開催

会館避難所運営と会館外避難所巡回を行う過程で、居住の問題やこころの不安を抱えながら自宅や車中泊をしている外国人が少なからずいたことから、4月26日に国際交流会館での相談会開催の準備を開始し、5月1日、8日、31日、6月12日の4回開催しました。また、関連した外国人コミュニティ会議を5月22日と8月21日に、防災と地震に関するセミナーを7月16日にそれぞれ開催しました。一方、会館での個別の相談や電話での対応は事業団の通常業務として随時行っています。

発災当初は、地震への恐怖や何処へ避難すればよいのか、熊本から出る交通手段についての相談が多くを占めました。5月中頃から学校や会社が再開され日常が取り戻されると相談内容が、失職や研究の遅れなど今後の生活に関することや眠れない、震災後に子どもの様子が変わった等のこころの不安へと変化しています。



### 第1回 相談会

5月1日(日) 11:00~14:00

国際交流会館1階エントランスロビー

来場者 80人 (国籍 フィリピン、インド、ブルガリア、スリランカ、インドネシア、英国、バングラデシュ、タンザニア、エジプト、中国)

相談件数 48件

#### 内容

##### 【法律】

- 住んでいたアパートが地震で住めなくなったが、家賃を支払う必要があるか。
- アパートの大家から立ち退きを告げられたが、部屋に大きな損害がなく続けて住みたい。

##### 【居住】

- アパートの安全確認を急いでお願いしたい。
- 家が壊れた、新しいアパートへ移りたい。
- 家の壁が壊れたり、家内の家具や食器が破損したりしているが、保証手続きについて知りたい。



##### 【在留資格】

- 在留資格の期限が迫っているが、家が壊れ避難所や友人宅を渡り歩いている。更新時の住所はどのようにすればよいか。

##### 【行政】

- り災証明書の申請の仕方について

##### 【こころ】

- 地震への恐怖で夜、家に帰れない。(前震の時、テレビが寝ている顔の直ぐ横に倒れてきた。)



### 第2回 相談会

5月8日(日) 10:00~14:00

国際交流会館2階交流ラウンジ

来場者 120人 (国籍 ネパール、フィリピン、インドネシア、英国、バングラデシュ、ケニア、タイ、ベトナム、アメリカ、メキシコ、中国)

相談件数 50件

#### 内容

##### 【法律】

- 勤務している会社からの給与支払いが滞っている。
- アパートの温水器が壊れているが管理者(大家)が対応してくれない。
- インターネットの契約について(地震で使用していない。)

##### 【居住】

- アパートの安全性に不安がある。
- パイプが破壊され、家内に汚水が入ってくる。
- 家の壁が壊れた。パソコン、テレビが壊れた。
- 団地の4階に住んでいるが1階へ引っ越したい。



##### 【在留資格】

- 地震の影響で会社を解雇された。早く別の仕事を探したいが在留資格の制限がないか心配。

##### 【行政】

- り災証明書の申請の仕方について
- 住宅地のゴミ回収について
- 生活に困窮しているが市の支援はないか

##### 【こころ】

- 胎児への影響がないか心配(妊婦の方から)
- 5歳の子どもの怖がってしかたがない
- 高校生の子どもの話さなくなった、一人で寝れなくなった
- 子どもの変化に、どのように接してよいかわからない
- 夫がいないと決まって頭痛が起こる
- 恐怖を誰かに伝えたい



### 第3回 相談会

5月31日(火) 11:00~14:00

熊本大学黒髪キャンパスグローバル教育カレッジ棟

来場者 4人 (国籍 国籍 バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、中国)

相談件数 4件

#### 内容

- 地震でアパートが壊れたので引っ越したい
- 地震がまた来るのではないかと不安で眠れない
- 日中、妻がアパートで一人になるので心配
- 地震で研究が遅れたが、奨学金は予定通りに終了するため、研究が継続できるか心配
- 地震で仕事がなくなった。アパートも全損で住めない。



相談会時に支援物資の配布を実施

### 第4回 相談会

6月12日(日) 11:00~14:00

国際交流会館2階交流ラウンジ来場者 3人 (国籍 インド、ジャマイカ)

相談件数 3件

#### 内容

- 地震でアパートが住めなくなったので、新しいアパートに引っ越す必要がある
- アパートを2年契約したが、解約できるか?
- 英語教師として来熊し、1年以上の契約が残っているが、ポジティブに働き生活する自身がない。

#### 相談会協力者

熊本県弁護士会、熊本県行政書士会、熊本市居住支援協議会、熊本市、イエズス会の聖心病院、日本イスラエイド・サポート・プログラム、多文化間精神医学会、コムスタカ〜外国人と共に生きる会〜

#### 課題と今後の対応

当初の相談内容は、非日常から起こる恐怖への対応や早急な安全の確保ことであったが、日々の経過とともに日常が取り戻されると今後の生活の再建や仕事・会社のことへ変化していました。また、日常の多忙な生活の中では、こころの不安が知らず知らずのうちに蓄積され、気づいた時には重症化している場合があります。個別相談を受け付けるとともに、音楽イベントや交流会等の楽しいイベントの中に相談会機能を入れる工夫が必要となりました。

また、外国人のコミュニティが在住外国人の相談の受け皿になることも多く、コミュニティ間の情報交換の場を積極的に作ることも重要となります。

6月26日に熊本城復旧支援コンサートでは熊本大学留学生会の「頑張り」ステージで交流したり、7月16日に地震のメカニズムや今後の地震の可能性についてのセミナーを開催したり、しました。また、5月22日、8月21日に外国人コミュニティ会議を開催しました。



2016年4月14日に誕生した赤ちゃんを抱え避難して来たバングラデシュ人



## 情報の多言語化

外国人が災害時要援護者になる原因の一つは言葉の違いである。日常会話が問題ない外国人でも、「り災証明書」や「仮設住宅申請」を一人で言うことは難しい。避難所での「給水」や「配給」などの単語が理解出来ず、日本人の行動についていけずストレスや不安を抱えることも多かった。このようなことから災害時の多言語支援は必須となる。

当事業団では、熊本地震発生時には、自治体国際化協会の多言語ツールを活用し、地震の発生や落ち着いて行動するように呼びかける災害メールの配信とホームページへの掲載を日本語、英語、中国語で行った。(ホームページへは韓国語を加えた4言語で掲載)

外国人避難対応施設開設時には、外国人からの問い合わせが多かった交通情報、避難所情報、銭湯情報などを多言語化して会館内のホワイトボードに貼り出した。

その後、災害多言語支援センターが設立され、4月23日に熊本市国際課との打ち合わせを行い、毎日発行される熊本市災害支援情報を入手して、日本語に加え、英語、中国語、韓国語に翻訳した。熊本市の庁内電子掲示板にアップされ各避難所で閲覧、必要に応じて印刷可能となりました。また、当事業団のホームページやFacebookへアップすると共に、国際交流会館内のボードに掲示しました。



情報提供数は、フェーズ1期間(九州地域国際化協会スタッフと多文化共生マネージャーの協力時期 4月23日から5月3日)に47本、その後、事業団で引き継ぎ、7月26日時点で83本の情報提供を行った。(12ページ災害支援情報一覧の通り)

### 少数言語への対応

大阪大学未来共生イノベータ博士課程プログラム(塚本俊也教授)の協力をいただき、12カ国言語へ翻訳して、大阪大学のホームページに掲載していただいた。

URL  
[http://www.respect.osaka-u.ac.jp/activities/notice/kumamoto\\_earthquakes\\_multilingual/](http://www.respect.osaka-u.ac.jp/activities/notice/kumamoto_earthquakes_multilingual/)

震災時に、日常会話ができる外国人も彼らの母語で話しかけられる等、情報が母語で提供されることは大きな安心につながります。



## 「やさしいにほんご」への ライト対応

熊本県立大学文学部日本語教育研究室(馬場良二教授)の協力をいただき、災害支援情報を「やさしいにほんご」へライトして、事業団のホームページに掲載しました。

### 情報多言語化の課題

- 翻訳出来る方々のネットワーク構築でタイムリーな多言語情報提供が必要
- 有益な情報を選別し、必要とする人が理解し、活用できるように情報を発信しなければならない。どの程度まで理解できたかを評価することが難しい。
- 現在は、ホームページへの掲載で、必要な人が自ら見に来ることが必要である。今後は、必要と考えられる人に理解できる言語で情報を届ける方法を検討することが必要である。
- 今回多言語へ翻訳した災害支援情報を今後有効に活用できるようにデータベース化することが理想である。



国際交流会館内の多言語情報コーナー

## さいがい しえん しょうほういちらん 災害支援情報一覧

No.	項目(分類:生活・交通・手続・ボランティア・その他)	No.	項目(分類:生活・交通・手続・ボランティア・その他)
1	市営住宅の入居について	43	熱中症に注意しましょう!
1-2	市営住宅の入居申請について(受付時間変更)	44	外国人のための電話無料相談会(通訳付き)
2	自動車関係の税金の減免について	13-3	「水が出ない方専用コールセンター」の設置について(追加情報)
3	運転免許証の再交付について	45	児童育成クラブを再開します。
4	自動車 車検有効期限の延長について	46	水道料金及び下水道使用料の減免措置
5		47	応急給水
6	電気料金に関する特別措置について	48	生活福祉資金(緊急小口資金)特別貸付のご案内
7	西部ガス ガス料金に関する特別措置について	49	熊本地震関連の各種相談窓口
8	年金に関する問い合わせについて	50	臨時預かり保育サービス事業について
9	熊本市の学校の再開について	13-3	「水が出ない方専用コールセンター」の設置について(追加情報)
10		51	熊本市の通常ごみの収集再開
11	被災された方へ 民間賃貸住宅について	52	民間賃貸住宅の借上げ(みなし仮設)について
12	法律や税等の相談	53	熊本地震被災に伴う教科書及び学用品の支給
13	「水が出ない方専用コールセンター」の設置について	18-2	応急危険度判定について
14	宿泊施設について	54	今、何を食べたら良いの?
15	保険証なしで医療機関を受診できます	55	地震災害に伴うごみの搬出について
16	ガスの使用について(お断り) 熊本地震によりガスが使えなくなった人へ	56	熊本地震による児童相談所の心理相談について
17	災害ボランティアを依頼される人へ	57	5月14日(土)、15日(日)における「り災証明の受付」について
17-2	災害ボランティアを依頼される人へ(受付時間変更)	58	摂りすぎないで!
18	地震後の建物の確認について(応急危険度判定について)	59	妊娠とところの電話相談について
19	エコノミー症候群に気を付けてください!!	60	「平成28年熊本地震 学校教育緊急ダイヤル」の開設
20	悪質な業者に気を付けましょう	61	熱中症や食中毒に注意しましょう
21	診療可能な医療機関、歯科医院、薬局	62	
22	市税の申請・納付等の期限の延長について	63	り災証明の発行について
23	4月22日(金)以降のごみの収集について	64	準備しておきたい非常持出品
24	避難所における感染症予防について	65	熊本市から市外・県外へ避難されている皆様へ
25	り災証明書について	66	被災し仕事が無くなった方を臨時職員として雇用します
26	スマートフォンで音声翻訳ができます	67	南区城南町に建設する応急仮設(プレハブ)住宅に関する説明会の開催について
27	臨時託児サービスを実施します	68	4月に「り災証明書」を申請された方へ
28	仮設住宅(民間のアパート)の申し込みができます	51-2	熊本市の通常ごみ収集再開(埋立てごみ)
29	ガスの栓を開きます	69	
30	民間アパートを借りることができます	70	熊本地震に伴う保育料(利用者負担額)について
23-2	ごみの収集について	71	医療保険窓口負担や介護保険利用料の猶予について
31	平成28年度地震被災者支援制度(目次)	72	被災者生活再建支援のための総合窓口開設について
32	避難所の無料WiFi 不正アクセスに注意!!	73	車中・テント等に避難されている皆様へ
33	雇用促進住宅の申し込みができます	74	被災した家屋等の解体・撤去申請受付開始について
13-2	「水が出ない方専用コールセンター」の設置について(追加情報)	75	個人市民税の減免について
34	熊本地震による被災者生活再建支援金が支給されます	76	地震災害ごみの収集について(植木を除く)
35	悪徳商法について相談できます(熊本県からのお知らせ)	77	平成28年度固定資産税・都市計画税及び自動車税の納税通知書の送付について
36	スポーツ施設の開放状況について	78	本館で被災された方への支援(ご家族の被害の相談窓口を設置しています)
37	住宅の補修を相談できます(国土交通省からのお知らせ)	79	地震災害ごみについて
38	熊本市休日夜間急患センターの診療対応について	80	平成28年度の江津湖花火大会は熊本地震の影響で中止します
39	被災住宅を応急修理します	81	熊本市立図書館及び児童館での被災者支援の受け入れについて(被災地区を除く)
40	外国語対応の病院が検索できます	82	熊本地震で、予防接種が受けられなかった方への費用助成のお知らせ
41	「拠点避難所開設」のお知らせ	83	被災者生活再建支援のための総合相談窓口について
42	公立小中学校の全面再開について		



# 避難所巡回

## 【活動内容】

災害多言語支援センターを設立した4月20日の午後から避難所巡回が始まった。初日は、事前に中国人、ベトナム人、ムスリム、留学生、ALTの方々が避難しているという情報を得ていた避難所や外国人校区別居住データより在住外国人が避難していそうな避難所を絞り、10カ所程度の避難所を、事業団関係の地元スタッフと県外からの協カスタッフが3チームに分かれて巡回した。

翌4月21日には各避難所へ電話連絡で上記のことを確認の上、午後から巡回した。

(5つのチームに分かれて計20カ所以上の避難所を巡回した。)

翌22日は30カ所以上の避難所を巡回し、その後、23日、24日、27日、5月2日、3日と計8回、50カ所以上の避難所巡回した。

- Q1. 外国人避難者がいるか(国籍、人数、子ども・乳幼児)
- Q2. 主な在留資格(留学生、家族、労働者)
- Q3. 外国人の子ども・赤ちゃんがいるか
- Q4. 日本語でコミュニケーションできているか
- Q5. 外国語で情報が届いているか



外国人被災者の安否確認、災害多言語情報提供のための避難所巡回

がいこくじん だんわそうだん じょうほうていきょう  
**外国人のための電話相談と情報提供**

（一財）熊本市国際交流振興事業団では、平成28年4月14日の地震発生後から、言葉や習慣の違いから情報を入手しにくく、支援を受けられない恐れのある外国人のため、必要な情報提供や支援を多言語（日本語、英語、中国語等）で24時間行っています。お知り合いの外国人被災者の方にお知らせください。

**電話相談・情報提供**  
TEL 096-359-2121

**ホームページ**  
http://www.kumamoto-if.or.jp/

くまもととしこくさいこうりゅうしんこうじぎょうだん  
**（一財）熊本市国際交流振興事業団**

■住所：熊本市中央区花畑町4番1号熊本市国際交流会館内

■E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp (日本語、英語、中国語)

**Multilingual Information and Advice for Foreigners**

After the earthquake happened on April 14, Kumamoto International Foundation (KIF) is providing 24 hours information and assistance in English, Chinese and other languages for foreigners not to miss available public support because of the linguistic or cultural barrier they might face to.

Please inform about KIF to non-Japanese speaker in the affected areas.

**Telephone Consultation and Information Service**  
TEL 096-359-2121

**Web Pages**  
http://www.kumamoto-if.or.jp/

**Kumamoto International Foundation**

■Time 9am - 6pm  
■Address Kumamoto City International Center  
4-18 Nambatake-cho Chujo-ku Kumamoto-shi, 860-0806 Japan  
■E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp (Japanese, English, Chinese)

**为外国人提供电话咨询和信息**

（一財）熊本市国際交流振興事業団では、平成28年4月14日の地震発生後から、言葉や習慣の違いから情報を入手しにくく、支援を受けられない恐れのある外国人のため、必要な情報提供や支援を多言語（日本語、英語、中国語等）で24時間行っています。お知り合いの外国人被災者の方にお知らせください。

**电话咨询・信息提供**  
TEL 096-359-2121

**网页**  
http://www.kumamoto-if.or.jp/

**（一財）熊本市国際交流振興事業団**

■住所：熊本市中央区花畑町4番1号熊本市国際交流会館内

■E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp (日本語、英語、中国語)

**災害多言語支援センターの広報チラシを各避難所に掲示してもらいました。**

## （避難所での外国人受け入れの課題）

### 外国人避難者が感じた課題：

- 日本語が理解できる外国人でも、周りの日本人が声をかけてこない、日本人の目線が気になることでストレスを感じた場合が多く、配給される食事の列には並ばず、カップばかりを食べている外国人避難者がいた。
- “給水所”、“物資配給”、“り災”等の日常会話に出てこない単語が多く不安を抱えた外国人避難者がいた。
- 日本語があまりできない、あるいはイスラム教徒等特別な文化背景を持つ外国人は、さらに大きなストレスを感じ、避難所から退去するケースがあった。例えば、配給される食事の材料の説明がなく、イスラム教のハラールへの配慮がなかった。

## 避難所運営側が感じた課題：

- 避難者名簿が作成管理できない程避難者が殺到した。このため外国人は災害時要援護者と規定されているが、情報がなく必要な支援が届かなかった
- 外国語が理解できずコミュニケーションがとれず、関係が悪化する場合もあった。

## 考察：

- 災害多言語支援センターは、各避難所と連携を図り、言語や文化の違いから不安を抱えている外国人がいれば、多言語情報提供や母語話者を派遣、寄り添って安心を届けることが重要である。
- 母語話相談員が話しかけた時、避難所で初めて笑顔を見せて中国人がいた。
- 日本語が分かるタイ人避難者は、タイ語での情報（タブレットで大阪大学のホームページのタイ語情報を見せた）に涙した。
- 想像より避難所へ避難した外国人が少ないようだった。車中泊の外国人(日本人の配偶者、家族で滞在している就労者等)が多いように考えられる。また、留学生は一時熊本を離れた者が多かった。

## 【外国人による避難所運営、被災者支援活動】

外国人が被災者でありながら、日頃支えてくれた地域住民を支援するため、彼らの「多文化パワー」が発揮されたケースが多くあった。



①熊本大学 黒髪キャンパス 避難所：  
留学生が中心となって避難所の運営を行った。学校時間割りのような活動表を作り、ゲームや英語活動を行っていた。また、学校内で映画上映会を行い、避難者を支援した。

②熊本イスラミックセンター：  
全国のムスリムから支援物資が熊本イスラミックセンターに届けられた。また、富山イスラミックセンター等の有志が支援に駆けつけた。彼らは被災者の避難所に物資を届けたばかりか、配給場所から重たい物資を家に持って帰るのに苦労している高齢者の住居へペットボトルの水などを一軒一軒配って回った。

③外国人コミュニティによる炊き出し：  
フィリピン人コミュニティ、ネパール人組織、スリランカ料理店の方々が各避難所で炊き出し支援をした。





## 災害多言語支援センター運営

### 【開設の経緯】

前述のとおり、本震後の4月16日、会館避難所へは熊本を脱出したい外国人旅行者が多言語での交通情報を求め殺到しました。会館避難所への在住外国人避難者支援活動に加え、電話での地震、避難所、食料や水の配給等の問い合わせの電話が寄せられ、その対応に追われました。

また、NHKをはじめ多くのテレビ局、新聞社からの取材の電話やCNN、BBCの海外メディアからの電話取材も殺到した。さらに、大使館、領事館から自国民の安否確認の電話もあり、事業団が震災時に役割として想定していた熊本市内の各避難所へ避難している外国人の安否確認や情報提供のための巡回は一切できる状態ではありませんでした。

このような中、本震後に、九州地区地域国際化協会連絡協議会の防災協定に基づき幹事協会の北九州国際交流協会間での協力職員派遣についての電話での話し合いが始まりました。同時に、多文化共生マネージャー全国協議会と、多文化共生マネージャーの協力派遣についての協議も始まりました。

4月20日、1名の九州地区地域国際化協会の職員と2名の多文化共生マネージャーが派遣され、災害多言語支援センターの活動が始まりました。



4月20日、最初の災害多言語支援センタースタッフミーティング

### 【活動内容】

●災害情報の多言語化(英語、中国語、韓国語)。翻訳された災害情報は、会館避難所への掲示、事業団ホームページとFacebookへのアップ、さらに熊本市国際課によって全庁で閲覧できる電子掲示板にアップされ、各避難所で必要に応じてプリントし、外国人避難者へ情報提供されました。

本格稼働を始めたのは、市の災害支援情報を入手できる体制ができた4月23日からでした。

●避難所巡回(外国人被災者の安否確認と支援情報提供)。4月20日の午後から開始、外国人居住データを基に各避難所に電話で外国人避難者の有無を確認して、約50カ所の避難所を巡回しました。



校区別の在住外国人データを基に、在住外国人が避難しているような避難所を地図で確認作業しているところ



4月23日以降、本格始動した災害支援情報の多言語への翻訳を担当するスタッフの活動の様子

#### 【地域国際化協会とは】

地域の国際化を行政とともに推進する民間国際交流組織であり、総務省が定める指針に基づき、県、政令指定都市が作成した「地域国際交流推進大綱」に位置づけられた民間と行政間の中核的民間国際交流組織を「地域国際化協会」という。総務省は、この組織を「地域国際化協会」と認定し、各種の支援措置を行っている。

■地域国際化協会を総括する一般財団法人自治体国際化協会のホームページ  
URL <http://www.clair.or.jp>

#### 【多文化共生マネージャーとは】

自治体国際化協会が実施する在住外国人に関わる諸制度や課題について理解を深め、多文化共生社会の進展に対応するための知識の習得、関係機関・部局等とのコーディネート能力を養成する研修を受講・終了した多文化共生文化の専門家。全国に415人の多文化共生マネージャーが登録されている。(平成28年7月現在)

■URL <http://tabumane.jimdo.com>

### 【熊本市地域防災計画について】

●外国人を災害時要援護者として位置づけ、日頃からの多言語での情報提供や多言語災害カードの配布を記載してある。一般財団法人熊本市交流振興事業団が、実施者として特定されている。

●災害発生時に、熊本市国際交流会館が外国人避難対応施設として記載されている。

### 課題

●会館避難所の運営者が不明確である。(運営者は、熊本市、指定管理者としての当事業団、あるいは地域国際化協会としての当事業団?)そのため、会館避難所が事前に広報されていなかった。今回の熊本地震では、結果として公設民営で、熊本市が設置、当事業団が運営した。

●当事業団では、避難所運営とは別途、熊本市内の各避難所へ避難した外国人の安否確認や災害多言語情報を提供する役目を事前想定していたが、避難所運営に忙殺されて、九州地区地域国際化協会のスタッフや多文化共生マネージャー等外部支援者の協力が始まるまで、館外避難巡回ができなかった。

(熊本市地域防災計画抜粋)

### 第3項 外国人に対する対策

外国人は、言葉の違いなどが原因となり、防災に関する情報や災害時における緊急情報、避難勧告等が理解できず的確な避難行動が取れない可能性があり、被害を受けることが考えられる。

このため、日頃から十分な防災対策の啓発に努め、特に傷病者については、言葉が通じないと不安も増すため、医療危難との連携を図りながら外国語で診療を受けることができる医療機関の把握と、市政だよりやホームページを活用した情報提供普及啓発に努める。

風-129

また、(一財)熊本市国際交流振興事業団では、「市政だより」の暮らし、健康に関する情報や本市で外国人が生活する上で必要となる情報を英語、中国語、韓国語へ翻訳して独自のホームページに掲載すると共に、警報以上の災害情報が出された場合、多言語防災メールへ登録している外国人へ災害情報を配信、災害時以外では、生活情報やイベント情報等を定期的(月1回)に配信を行うなど情報提供に努めている。

国際交流会館では、外国人への多言語での相談窓口を設置するなど、情報提供に努める。さらに市民の生活の日本語ボランティア登録制度の充実を図る一方、外国人のニーズやレベルに合わせた様々な日本語教室を開催し、言葉の問題に起因する情報不足の解消に努めるほか、地域の保健福祉センターや自治会及び地域に居住する外国人グループ等と連携をはかり、防災意識の啓発や防災訓練等の地域活動へ外国人が積極的に参加する環境を整える。

外国人避難対応施設

施設名	住所	電話番号
熊本市国際交流会館	熊本市中央区花畑町4番18号	096-359-2020

※大規模な災害発生時には上記の施設が観光文化交流局対策部により開設されますので、連絡又は避難してください。  
(現政策局国際課)



## 外国人避難対応施設運営

熊本市地域防災計画で、熊本市国際交流会館が大規模な災害発生時における外国人避難対応施設として規定されていることを根拠として、熊本地震の前震後の4月15日午前1時、また本震後の4月16日午前4時に、熊本市政策局国際課の決定に基づき、熊本市国際交流会館に外国人避難対応施設(以下、会館避難所という)が開設され、熊本市国際交流振興事業団が会館避難所運営を行いました。



前震後の開設では、韓国人3人と日本人1人が避難、夕方までに退出されたので、15日午後10時に閉鎖しました。

本震後は、前述の開設後4月30日まで、24時間連続で、開設運営しました。4月16日、午前中から、会館避難所には、生活としての在住外国人以上に、韓国、中国、タイ、アメリカ、フランス等海外からの団体旅行や個人旅行の外国人訪問者が殺到しました。外国人避難者数は一時的に100人を超えましたが、そのうち外国人訪問者は交通情報を入手したり、旅行社でバスを手配したりして熊本から出て行きました。一方、在住外国人は、住居の壁や天井が壊れたり、食器棚・箆笥やテレビが倒れたり、不安と恐怖から避難所での宿泊を余儀なくされました。

会館避難所へ宿泊した避難者数は次の表のとおりです。

国籍	在留資格	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日
1 日本		109	63	42	38	29	24	26	23	19	19	11	9	10	1	5	0	0	0	0	0
2 カナダ	(旅行者)	1	1																		
3 バングラデシュ	留学・家族滞在	12	10	10	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	3						
4 中国	技能実習	13	14	10	9	11	15	10	2	2	2	2		1							
5 タンザニア	留学・家族滞在	3	3	3	3	3	3	3										1			
6 韓国	特定活動	6	3	2	1	2		1											1		
7 台湾	留学	2																			
8 ロシア	同行	1	3																		
9 イギリス	不明																				
10 フランス	(旅行者)		2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
11 エジプト	人文・知識・国際業務		1		1		1	1	1		1	1	1	1	1				1		
12 フィリピン	永住者		3	4	5	5	4	5	4	4	4	5	4	4	8	4					
13 スリランカ	留学・家族滞在			5	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	1	3					
14 アメリカ	人文・知識・国際業務			1								1	1	1	1				1		
15 NZ	人文・知識・国際業務			1																	
16 アイルランド	人文・知識・国際業務			1																	
17 マレーシア	不明					1	1														
外国人計		38	40	39	26	28	34	29	16	15	17	18	15	16	12	10	2	1	0	0	0
合計		147	103	81	64	57	58	55	39	34	36	29	24	26	13	15	2	1	0	0	0

### 【地震発災時の外国人の行動様式】

- 公園や大学の運動場など屋外へ多くの方が避難していた。その後一旦、小学校等の避難所へ行ったが、情報が日本語だけのため日本人の行動について行けず、避難所を退去するケースが多く報告された。
- 日本人の配偶者として、家族と一緒に居住している在住外国人の場合、車中泊をするケースが多くあった。
- 本震後は、韓国、中国等在住自国民が多い当該国の領事館が、福岡までのバスを手配して、自国民の熊本脱出を支援した。また、国際協力機構(JICA)は、当該研修生を北九州にある国際センターへ受け入れた。



本震後4月17日夜の会館避難所の様子



4月17日外国人避難者への聞き取り調査の様子

### 【外国人が抱えた不安とは】

(4月17日外国人避難者への聞き取り調査を行なった際大きく2つの不安が確認できた。)

- 地震への恐怖と今後の地震発生の可能性(精神的不安)
- 自宅・アパートが壊れて住むことができない。

### 【不安の原因】

- ・自国で地震を経験したことなく今後のことが全く予想できなかった。
- ・TVや避難所での災害情報がほとんど日本語であった。
- ・避難所に入ったが、まわりが日本人だけで、孤立感を感じた。

### 【物資と炊き出し】

- 会館避難所は言葉や文化の違いから避難情報にアクセスできない外国人へ自宅の最寄りの避難所等必要な情報を提供する一時避難所扱いのため当初は行政の支援物資が配給されない可能性があった。

- インターネットで物資協力を募った。(水、食料、ティッシュや赤ちゃんのおむつ、また、イスラム教徒(ムスリム)の方々が避難されていたことからイスラム教の戒律に合った(ハラール)物資の提供協力を呼びかけた。)

- 全国で外国人支援をされている団体や個人(日系等の外国ルーツや外国人の方々を含む)より多くの支援物資が届いた。ハラールのお弁当やジャム等ムスリムの方々が安心して食べることができる食料やアルコールを使用しない除菌ティッシュも届けられた。

- 熊本にある外国人支援団体であるコムスタカ~外国人と共に生きる会~の協力で、会館避難所が閉鎖されるまで、ほぼ毎日炊き出しを実施していただいた。(栄養バランスがとれた温かい食べ物は避難者の健康管理に加え、大きな勇気づけとなった。)



炊き出しの様子(温かく、野菜も豊富な炊き出しに感謝)



リッチモンドホテルグループからハラールの弁当400食が提供された。(うち250食は熊本イスラミックセンターへ提供)



全国から届けられた支援物資

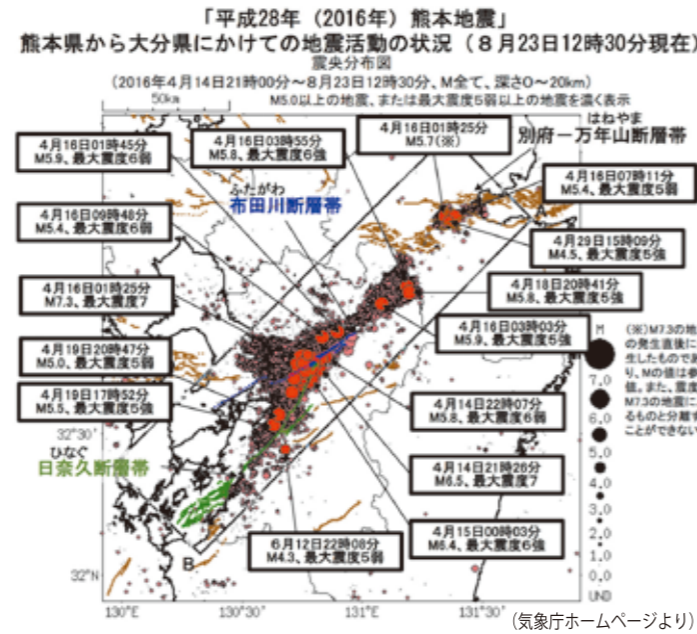




## 熊本地震の状況

### ●熊本地震の概要

- 前震 発生日時:2016年4月14日(木)  
21時26分  
規模:マグニチュード6.5  
熊本市内震度6弱(県内最大震度7、益城町)
- 本震 発生日時:2016年4月16日(土)  
01時25分  
規模:マグニチュード7.3  
熊本市内震度6強(県内最大震度7、益城町)
- 震度1以上の余震、2000回以上(余震型地震)  
(9月30日 現在)



### ●熊本市被害状況(9月6日 現在)

- 人的被害:死者数42人(関連死38人を含む)、重傷者558人  
(県内人的被害:死亡者110人(関連死60人を含む)、重傷者800人)
- 家屋被害:全壊 2,439棟、半壊14,456棟、一部損壊85,132棟  
(県内家屋被害:全壊8,166棟、半壊29,225棟、一部損壊130,119棟)
- 最大避難者数 約11万人(県内最大避難者数 約18万人)(4月17日08時頃時点)



参考:熊本市の人口と在住外国人の状況

	世帯数	人口			外国人		
		計	男	女	計	男	女
中央区	91,537	176,637	81,197	95,440	2,220	980	1,240
東区	84,038	190,637	90,593	100,111	796	369	427
西区	42,137	92,537	43,240	49,297	550	273	277
南区	52,662	129,041	61,060	67,981	367	140	227
北区	61,715	143,861	68,471	75,390	564	232	332

計 732,713 4,497

多い順国籍 中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナム、米国、ネパール

多い順在留資格 永住者、留学生、日本人の配偶者

(熊本市人口統計2016年3月31日)

## 支援活動の概略

### ①活動期間/内容

- 外国人避難対応施設運営期間:4月15日(金)1:00~22:00  
16日(土)4:00~4月30日(土)22:00(24H連続運営)
- 災害多言語支援センター: 4月20日(水)~現在継続中  
フェーズ1 ~ 5月5日  
フェーズ2 5月6日 ~
- 外国人被災者のための生活相談会:5月1日(日)、8日(日)、31日(火)、6月12日(日)-4回実施
- 外国人コミュニティ会議:5月22日(日)、8月21日(日)
- 地震のメカニズムや今後の地震の可能性についてのセミナー:7月16日(土)

日	曜日	時間	活動内容
4月14日	木	21:26	前震 M6.5 熊本市内震度6弱(県内最大震度7)
4月15日	金	1:00	国際交流会館外国人避難対応施設開設(通常運営中止)
		22:00	閉館
4月16日	土	1:25	本震M7.3 熊本市内震度6強 ガス、水道ストップ、一時停電
		4:00	国際交流会館外国人避難対応施設開設 公共交通機関ストップ
			海外からの旅行者、国内外のマスコミ取材が殺到
			最大避難宿泊者数 147人(うち外国人38人を含む)
4月17日	日		・各国の駐日大使館や領事館がバス手配等自国民を支援 ・外国人被災宿泊者への聞き取り調査実施
4月19日	火		JR 熊本駅~博多駅間が一部開通
4月20日	水		災害多言語支援センター開設
		AM	九州地区地域国際化協会、多文化共生マネージャー全国協議会よりのスタッフ到着
			国際交流会館外の避難所巡回開始
4月23日	土		熊本市国際課との定例会議を開始(1回/日)→災害情報の入手と多言語化を本格開始
4月24日	日		駐日フィリピン領事館による相談会開催
4月26日	火		外国人被災者のための相談会準備開始
4月28日	木		自治体国際化協会視察
4月29日	金		駐日アメリカ大使視察
4月30日	土		外国避難対応施設公式閉鎖(炊き出し終了)
5月 1日	日		第1回外国人被災者のための生活相談会開催
5月 3日	火		外国人被災宿泊者への自立支援終了
5月 5日	木		災害多言語支援センターフェーズ1終了





4月14日・15日、県内最大震度7の2回の大きな揺れと2000回を超える余震がもたらした甚大な損害【余震型地震】

民間外国人支援団体コムスタカ～外国人と共に生きる会～の協力で炊き出しを4月30日まで実施



4月15日午前1時、16日午前4時、その後4月30日まで24時間運営の外国人避難対応施設を開設・運営



館内で日本語、英語、中国語、韓国語での災害支援情報を提供

4月20日、九州地区地域国際化協会連絡協議会と多文化共生マネージャー全国協議会の協力で「熊本地震災害多言語支援センター」を開設



## 目次

本報告書の発行にあたって ..... P2

熊本地震の状況 ..... P3

支援活動の概略 ..... P4

外国人避難対応施設運営 ..... P5～7

災害多言語支援センター運営 ..... P8

・避難所巡回 ..... P9～10

・情報の多言語化 ..... P11～12

外国人被災者への生活相談会開催 P13～14

外国人被災者の声 ..... P15

支援者よりのメッセージ ..... P16

新聞報道 ..... P17～P18

未来へ ..... (裏表紙)



外国人被災者のための生活相談会の開催（居住、行政、法律、在留資格、こころ）（5月1日、8日、31日、6月12日）



7月16日、外国人のための防災、地震セミナーを開催

## 2016熊本地震外国人被災者支援活動 報告書の発行にあたって

今、熊本地震発震より半年が経ち学校・会社は日常を取り戻し、甚大な被害を受けた熊本城等文化財の復旧が始まりました。一方、震災で受けた恐怖が日常生活で忙殺され知らないうちにトラウマが蓄積されている方々も多く「こころ」のケアが必要となり、仮設住宅への移転ではコミュニティ維持・再生が課題となっている現状があります。

このような中、改めて、熊本地震の犠牲者の方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。

さて、今回の地震の被災者には、母国で地震を経験したことがない在住外国人や土地勘がない海外からの訪問者も多く含まれ、彼らは言語や文化の違いから、より大きな不安と恐怖を抱えました。彼らが孤立せず必要な支援が受けられるように、当事業団では、熊本市国際交流会館で公設民営の外国人避難対応施設を運営するとともに、外国人被災者の安否確認のための避難所巡回と災害支援情報の多言語化を行う災害多言語支援センターを、九州地区地域国際化協会連絡協議会や多文化共生マネージャー全国協議会の協力を得て設置しました。当該避難対応施設の運営では、地元の民間外国人支援団体「コムスタカ～外国人と共に生きる会～」に炊きだし協力をいただき暖かい食事を提供することができました。

一方、多くの外国人被災者の方々が一緒になって炊き出しに協力したり、高齢者住宅へペットボトルの水を配ったり「多文化パワー」に助けられました。日本全国より沢山の水・食料・ベビー用品等物資や支援金をご寄付いただくとともに、全世界よりお見舞い・励ましのメッセージをいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

地震大国日本では、どの地域においても地震が起きる可能性があります。今回の外国人被災者支援活動での実績や課題をまとめ、災害弱者を置き去りにしない多文化共生社会づくりを推進し、地震への備え・減災への一助になることを願い、本報告書を発行いたします。

以上

2016年10月10日

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

理事長 吉丸 良治